

「27期生グループワークと個人の研究発表の会」

2022年7月7日

野老澤の歴史をたのしむ会

記 中村静子

開催日時 2022年7月7日13時30分～15時30分

参加者 46名(男性31名、女性15名)

会場 中央公民館8、9号室

新型コロナウイルス拡大の為、二度に渉り延期されていましたが、満を持して開催されました。

参加者の内訳は、「野老澤の歴史をたのしむ会」の会員、「ところざわ倶楽部」の他の会の方々、発表者の27期生の方々に加え、28期生の方々が、発表の方法を体験し今後のご自分の参考にされたいとのことで、数名参加されました。又、市民大学「所沢市史」の講師であられる渡辺隆喜先生もお出ましく下さり、会場はほぼ満席となり、賑々しく会が開始されました。

13時30分から40分間は中村静子の「所沢の織物業と十六代向山小平次の勸業政策」というタイトルでの発表があり、途中10分間の休みの後、14時20分からは「所沢の魅力再発見!! 川と街道から見た所沢の歴史」というタイトルで第27期所沢の歴史グループの方々の発表が行われました。

◎「所沢の織物業と十六代向山小平次の勸業政策」

中村の発表の目的は幕末、明治期における所沢の織物業の状況を把握し、その上で所沢を代表する明治期の実業家、十六代向山小平次の勸業政策やその他の事跡を究明する事、又、その事跡から所沢の経済発展に対する功績を確認する事です。

資料としては、国会図書館、浦和文書館、所沢図書館、明治、大正期の新聞雑誌記事や博覧会、共進会の記録「内国勸業博覧会報告書」「戸長役場文書」等、又、飯能の取引業者との関係文書等を参考にしました。

発表は、研究の目的と資料、時代背景、明治期の所沢の産業、所沢織物の種類、高機導入と輸入糸使用の増加、向山家の出自、十六代向山小平次、織物中継業、内国勸業博覧会、共進会への出品、審査、織物業以外の業績という流れで進めました。

十六代向山小平次は、織物中継商として生産性の向上、新商品の開発や品種改良後進の育成に力を注ぎました。又、内国勸業博覧会、共進会を販路拡張、事業拡大、商品開発等の為

に利用し頻繁に織物審査員を務め、明治 34 年に農商務大臣より功労賞、同 39 年に賞勳局より緑綬褒章を下賜されました。又、織物以外にも所沢銀行、飯能銀行の設立、川越鉄道の誘致、所沢停車場誘致、飛行場誘致、県会議員となり政治活動、赤十字などに寄付等の慈善活動を行うなど多種多様な事業に係りました。小平次の勸業政策は、まさしく所沢発展の礎を築いたといえます。



発表後、渡辺先生より、多くの現資料を精査したことに対する評価を頂きました。自分としても、浦和文書館で埼玉県行政文書「蚕業功労者調べの件」、国会図書館で農商務省編纂『工務局月報』、生涯学習センター資料室で、「本県進達その他書類綴込」(マイクロフィルム)などの一級資料を調査出来たことは大変貴重であったと考えています。又、飯能博物館で「市日記」を収納室から出して頂き、その内容を学芸員立会いの下、写真に撮らせて頂き、精査出来た事は重要な資料となり、大変有難かったです。

向山家の出自については、所沢小学校の郷土資料室で保管されていた「向山家の食器入れ」に「油屋小平次」と書いてあるのをたまたま発見し、大変興味が湧きました。司馬遼太郎の『国盗り物語』では、主人公の斎藤道三が油売りから身を起こして美濃の国主となっており、小説の中に「油屋なら、小さな大名ほどの富はある」というセリフが書かれていたのを興味深く思い、油屋について調べていたからです。

◎「所沢の魅力再発見!! 川と街道から見た所沢の歴史」

14時 20 分からの「所沢の魅力再発見!! 川と街道から見た所沢の歴史」は、川グループ

と街道グループに分かれて、それぞれのフィールドワークの結果が発表されました。

川グループの方々は、砂川、東川、柳瀬川の川に沿って歩かれ、それぞれの川の成り立ち、川の近くにある遺跡、寺、神社などの解説をされました。

砂川は①狭山丘陵の麓「堂入の池」を水源とし、富士見市で新川岸へ合流。②川の流が消え、砂床が露出するところから「砂川」と呼ばれるようになる。③明治大学が学術調査した砂川遺跡があり、ここから発見された旧石器時代の石器として、国の重要文化財「ナイフ形石器」があり、古くから人々が生活していたことが確認されている。④明治時代に入り、下流域を所沢飛行場の排水路として利用する事になる。(砂川堀都市下水路)⑤三富新田は1694年川越藩主の柳沢吉保が新田開発を手掛ける。

東川は①砂川と同じく狭山丘陵の麓「堂入の池」を水源とし、坂の下で柳瀬川と合流。②膳棚遺跡は縄文時代中期の集落跡、人々が長期間定住したことが分かる。③明治時代には「谷戸川」「悪水」と記され排水路として利用されていた。④所沢は昔から水に不便な場所として知られ、「弘法大師の三つ井戸」の話が伝わっている。⑤流域周辺に新光寺、薬王寺、実蔵院、所澤神明社などがある。

柳瀬川は①狭山丘陵を源とし、六ッ家川、北川、空堀川、東川などを集めて、志木市で新河岸川へ合流。遺跡としては、②根古屋城跡、③山口城跡、④大堀山館跡、⑤滝の城跡、黄林閣などを挙げられ、それぞれの場所の説明がありました。

現在、それぞれの川の桜並木は春になると毎年多くの方が訪れますので、皆さんも歴史に触れながらお散歩されては如何でしょうかということでした。



街道グループの方々は鎌倉街道(上つ道)を中心に発表されました。所沢市内には堀兼道、入間川道、小手指道とあり、フィールドワークされた場所は①小手指ヶ原古戦場、誓詞橋、白幡塚、②実蔵院、薬王寺、新光寺、所沢神明社③長久寺、勢揃橋、鳩峰神社、將軍塚、④東山道武蔵道の4ブロックとのことでした。

所沢市内には新田義貞の鎌倉攻めの古戦場跡や鎌倉時代の面影が残っている街道が随所に見られます。皆さんも一度歩いて見たらいかがですか。というご提案でした。又、フィールドワークを通して新たな所沢の発見が出来たとのことでした。

27期の方々が歩かれた場所は、「野老澤の歴史をたのしむ会」でも過去に訪れたことのある場所もあり、臨場感に浸りながら拝聴することが出来ました。

最後に渡辺先生からご講評を頂きました。川と街道はこの地域の土台の歴史ということで、段々時代が新しくなると市場が出来て物流の話へと続けることが出来ますと語られました。又、所沢の大実業家向山小平次の話と、川と街道を合わせて研究することの有用性が示唆されました。

以上

担当 C グループ 中村 佐野 佐藤 栗屋